



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

～第二四八号～

清明

四月四日

鷲嶺の水穴

伊勢で朝熊山に次いで高い鷲嶺（標高五四八m）。干支の酉にちなんで、登る方も多いかもしれませんが。この山の南嶺の中腹には、大小の鍾乳洞があります。鍾乳洞は石灰岩層が、二酸化炭素を含む地下水などに浸食されてできた洞穴のこと。今から百万年前に出来たと推測され、果てしない時を刻んできた自然の洞穴なのです。

その一つ、鷲嶺の水穴（県指定文化財）に連れて行ってもらいました。伊勢市矢持町下村の集落から林道に入り、駐車場から山道をひたすら登ること三十分。途中、炭焼き小屋跡や井戸跡を見て、水穴の入口に着きました。ほっかりと空いた水穴の入口は意外に大きく、そこから水が流れ出ています。少し入ってみると、右に折れて奥に続いているのがわかります。すでに調査が入っており、洞の長さは県内最長の三〇〇m以上で、延べにすると六五〇mとしますから、この山の中腹は、太古の洞穴が縦横に張りめぐらされているのでしょうか。『伊勢名勝誌』（明治二十二年）には、「大旱でも涸れず、窟中暗黒にして、蝙蝠多くすむ。里人は、昔山田世義寺の僧はここで修法をしたと伝える」と書いています。入口の注連縄は毎年、地元の人々が正月に張り替えるもので、今も神聖視されていることがうかがえます。

ここから東へ約一キロのところにも覆盆子洞という鍾乳洞があります。ここは、平家の落人伝説と繋がり、落ち延びた平知盛が妻子を隠したといいます。

光の届かない洞内は、蝙蝠などわずかに生物が棲んでいるだけですが、こうした言い伝えは暗闇が続く洞穴への畏れと立ち入りを警告していると感じました。

山道には水音が響きます。木々の芽吹きが間もなく始まります。

文 千種清美

